

北の丸公園の利用の在り方に関する検討会 ヒアリング資料

2023年7月14日

公益財団法人日本科学技術振興財団
科学技術館

1960年(昭和35年) 産業界主導で財団創設

■財団創設の目的と事業の実施等

科学技術振興に関する事業を推進し、もって我が国の科学技術の水準の向上に寄与することを目的に設立。科学技術館の運営、科学技術理解増進活動の推進、科学技術振興方策の調査・献策、関係団体・産学官の連携促進などの事業を行うこととした。

＜旧財団法人＞

- 初代会長 (株式会社日立製作所社長) 倉田主税 (1960 年～1966 年)
- 第2 代会長 (経済団体連合会会長) 植村甲午郎 (1966 年～1978 年)
- 第3 代会長 (経済団体連合会会長) 稲山嘉寛 (1978 年～1988 年)
- 第4 代会長 (経済団体連合会会長) 斎藤英四郎 (1988 年～2000 年)
- 第5 代会長 有馬朗人 (2000 年～2011 年)

＜公益財団法人＞

- 初代理事長 勝俣恒久 (2011 年4 月～2011 年6 月)
- 第2 代理事長 有馬朗人 (2011 年6 月～2012 年3 月)
- 第3 代理事長 榊原定征 (2012 年4 月～2023 年6 月)
- 第4 代理事長 東原敏昭 (2023 年6 月～現在)

■事業の財源-自主財源を確保しつつ産業界・公的機関からの援助を得て事業を実施

①業績

単位:百万円

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
収 益	1,991	1,890	1,912	1,407	1,565	1,583
費 用	1,859	1,841	1,852	1,491	1,615	1,566
損 益	132	49	60	△ 84	△ 50	17

②従業員数

(2023 年4 月現在、役員等除く)

- 財団 : 60 名
- 関係会社 : 118 名
- 合計 : 178 名

1964年(昭和39年) 科学技術館開館

(現館長：野依良治)

■特徴

- ①産業界、公的機関の協力により、青少年を対象に基礎科学や生活に密着した産業技術を展示
- ②参加体験型の展示や、実験演示などの手法で展開、毎日数多くの実験ショーを実施

■科学技術館常設展示—産業界・公的機関による展示活動

1974 年（昭和49 年）産業界による出展開始、1979 年（昭和54 年）公的機関による出展開始

<最近の産業界・公的機関による出展展示一覧>

産業界出展展示		産業界出展展示	
展示室名	出展・提供団体	展示室名	出展団体
鉄の丸公園 1 丁目	(一社) 日本鉄鋼連盟	産業センター	日本精工(株)、 (一財)カーボンフロンティア機構、 (株)日立産機システム、 (株)日立製作所、 日本鉱業協会、 (一財)リモート・センシング技術センター、 (公財)自動車リサイクル促進センター
ワクエコ・モーターランド	(一社) 日本自動車工業会		
建設館	(一社) 日本建設業連合会		
DENKI FACTORY	電気事業連合会		
ニュー・エレクトロホール 〈サイバー・リンク〉	(一社) 情報通信ネットワーク産業協会、 (一社) 電子情報技術産業協会、日本電気(株)、 (一社) 日本電機工業会、日本電信電話(株)、 パナソニック(株)、(株)フジクラ、富士通(株)、 三菱電機(株)	実験スタジアム	東レ(株)、キヤノン(株)、 ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)
	電気事業連合会、原子力発電環境整備機構 日立グループ、東芝グループ、三菱グループ 第一原子力産業グループ、日本原子力発電(株)	公的機関等出展展示	
アトミックステーション ジオ・ラボ		展示室名	出展機関
くすりの部屋—クスリウム	日本製薬工業協会	自転車広場	(一財) 日本自転車普及協会
モーターズワールド	マブチモーター(株)	産業センター	東京管区气象台

理系人材育成につながる多彩な科学技術理解増進活動の推進

■「青少年のための科学の祭典」の実施（1992 年から実施）【企業協賛】

- ・内容：子どもたちを対象に様々な科学実験、工作のブースを設置、科学の楽しさを体験
- ・実績：「青少年のための科学の祭典2022 全国大会」を3 年ぶりに開催、来場者数は7,778 人
全国の都道府県では55 大会が実施、来場者数は86,160 人が参加
- ・活動の効果：青少年の科学への興味・関心を高め、学校教育との連携を強化

■「サイエンス友の会」における会員制教室の実施(2021 年から新制度で実施)

- ・内容：子供から大人までを対象とした会員制教室（実験教室、工作教室、自然体験教室など）
- ・実績：2022 年度会員数1,032 名実験教室など63 回開催（参加者総数940 名）
- ・活動の効果：実験、工作教室などで科学的な見方を育て、将来の理系人材の育成に貢献

■企業、団体による産業技術に関するイベントの実施

- ・内容：各企業、団体が子どもたちに楽しく科学技術を学ぶ機会を提供するイベント
- ・実績：「ロボコン体験ミュージアム」、「『クルマのリサイクル』作品コンクール入賞作品展」、「石炭実験教室」、「三菱商事科学体験プログラム」、「ようこそふしぎな『量子』の世界へ」、「市村アイデア賞作品展」、「科学技術館航空宇宙STEM ワークショップ」等を開催

■「国際生物学オリンピック」への派遣（2005 年から実施）

【国立研究開発法人科学技術振興機構支援事業・企業協賛】

- ・内容：国際生物学オリンピックの国内大会の実施と国際大会への日本代表の選抜・派遣業務
- ・実績：2022 年度国内大会に2,938 名の中高校生が参加、予選・本選・代表選抜試験を実施し、
第34 回国際生物学オリンピックの日本代表4 名を選考
第33 回国際生物学オリンピック（アルメニア大会）に参加（成績：金1、銀1、銅1、優秀1）
- ・活動の効果：優秀な人材の発掘と育成、生物学分野の裾野を拡大

■全国の社会教育施設の運営

埼玉県から選定された指定管理者として、1993 年より所沢航空発祥記念館を運営。

1.施設の概要

■沿革

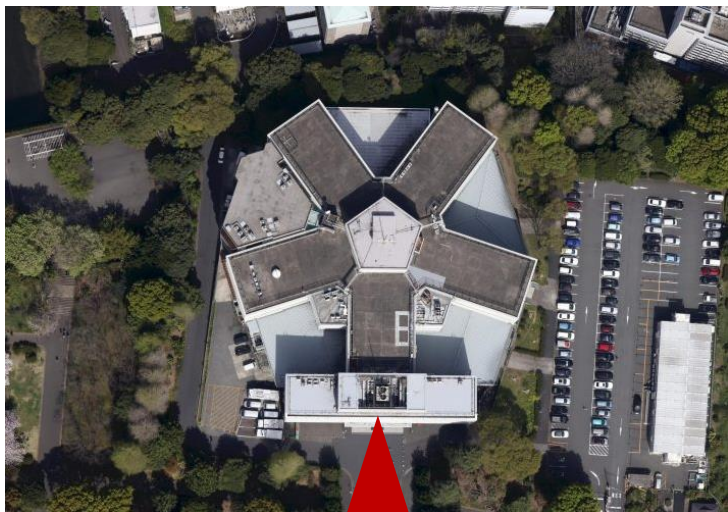
- 1960年 財団法人日本科学技術振興財団 設立許可
- 1964年 科学技術館開館
- 1966年 博物館法第2条による博物館として認可
- 1982年 創立20周年・開館15周年事業として別館建設(地下階から2階)
- 1989年 創立30周年・開館25周年事業として別館増築(3階～5階)
- 1996年 5階を大改装「FORESTー遊び・創造・発見の森」
- 2015年 累計入館者3,000万人達成

■建物概要

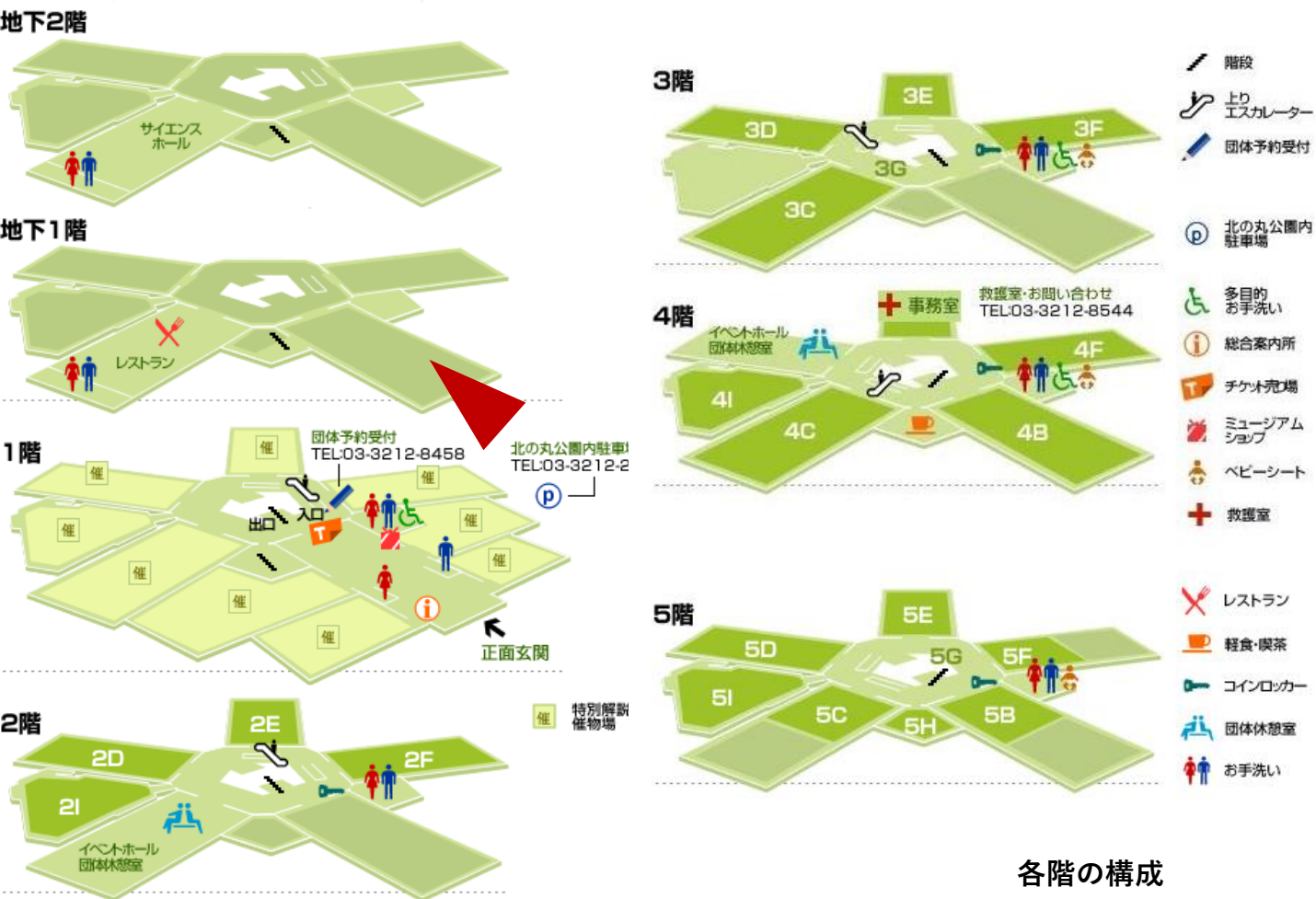
- 建物用途：博物館
- 竣工年：1964年
- 建物規模：地上6階、地下2階
- 設計者：松下清夫、平山崇

■建物構成

建物は、宇宙に散在する星をイメージしたデザインの外壁で覆われ、放射状の特徴的な平面形状となっている。



上空から見た建物外観



科学技術館の利用者数と施設利用状況

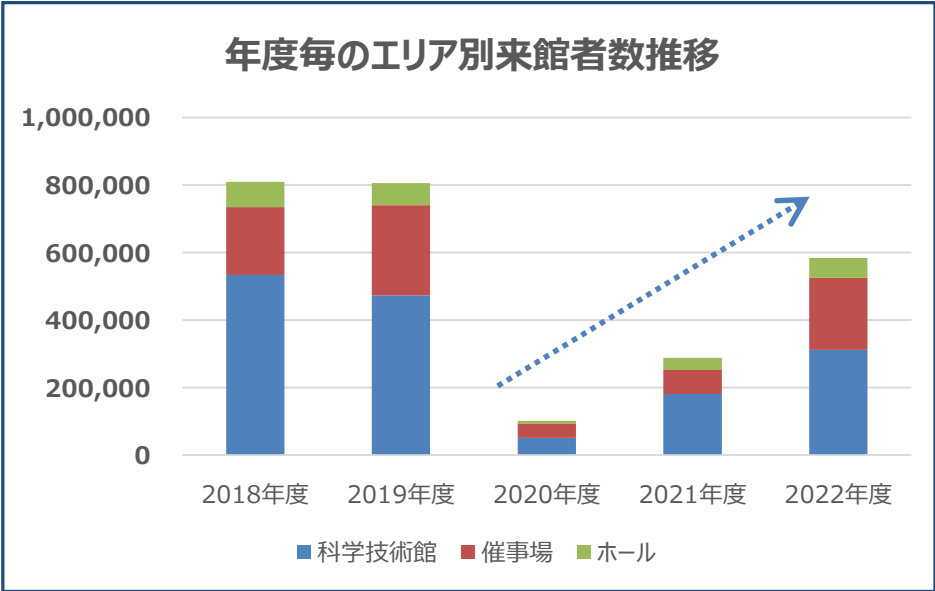
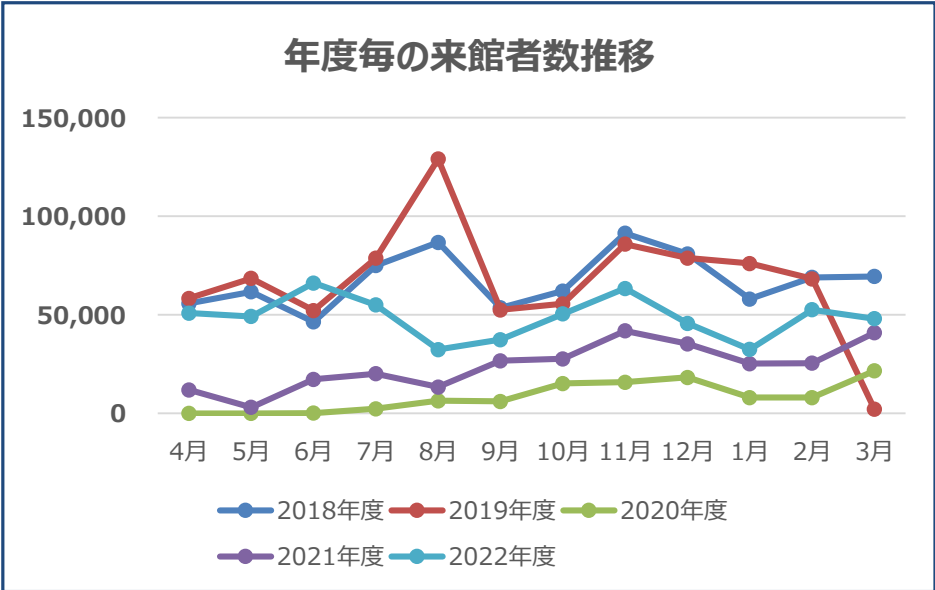
(年間利用者総数)

2018年度、2019年度は年間80万人の来館者数を記録していたが、コロナが本格化する2020年度は10万人程度と1/8に落ち込んだ。その後、2021年度、2022年度と来館者数は順調に回復している。

(施設利用の概況)

科学技術館の来館者数が過半を占めるが、催事場の利用者も年間20万人を超え、北の丸公園の利用にも寄与している。

- ※2022 年度内訳
- ・個人：17.7 万人（56.9%）
 - 大人 53.7%
 - 中・高 5.7%
 - 小学生以下 40.6%
 - ・団体：13.5 万人（43.2%）
 - 大人 7.4%
 - 中・高 3.9%
 - 小学生以下 88.7%



北の丸公園の利用者数と施設利用状況

(年間利用者総数)

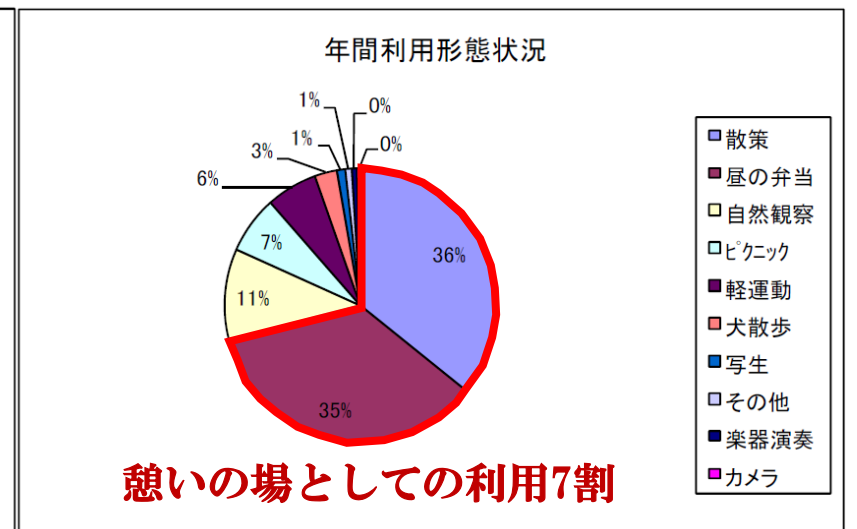
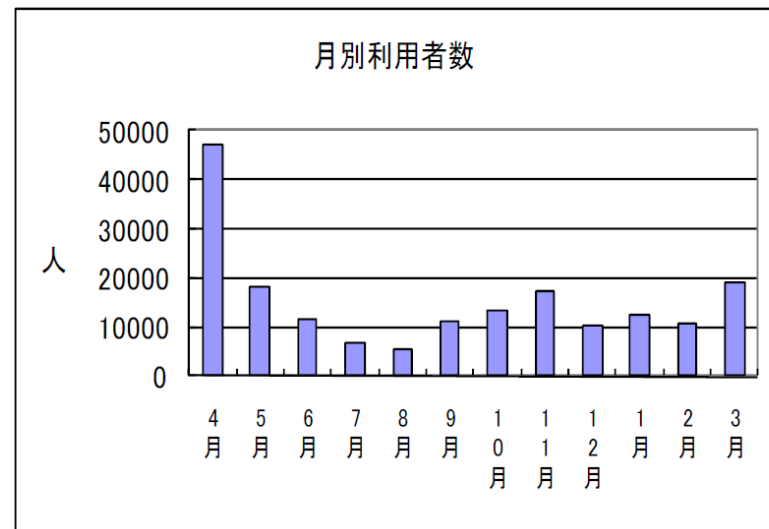
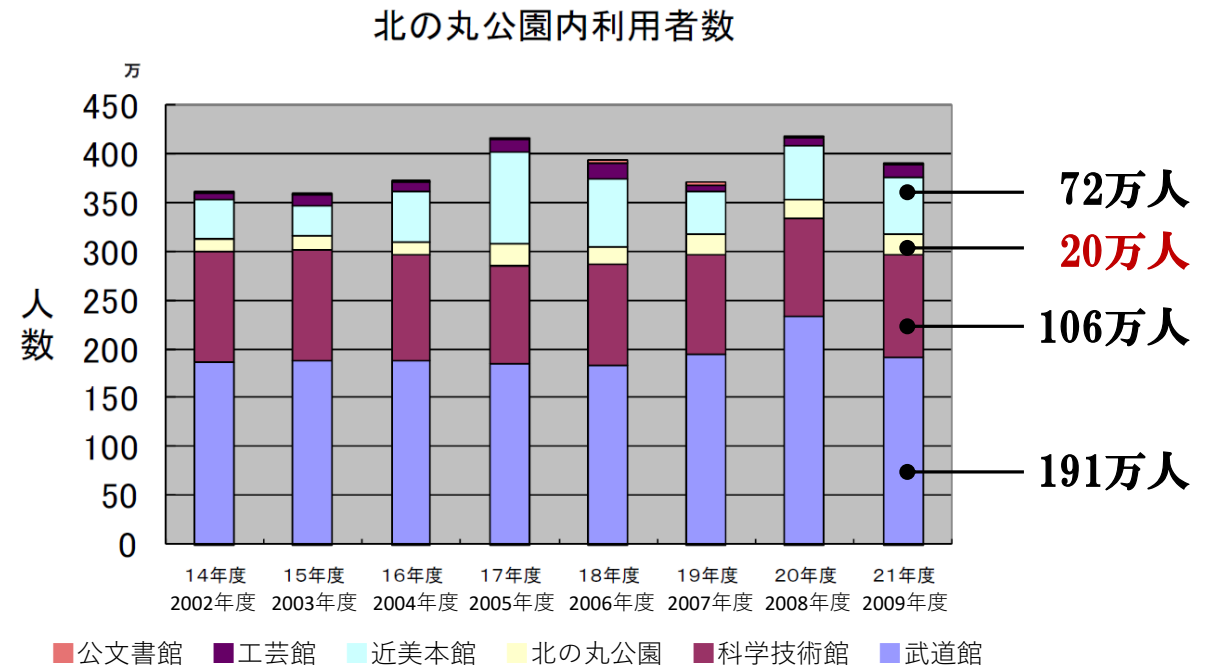
2009年度の利用者の内訳を見ると、日本武道館の約191万人／年が最多。次いで科学技術館約106万人、国立近代美術館（本館及び工芸館）72万人の順で、北の丸公園の巡視による目視で確認された**公園部分のみの利用者数は、約20万人**である。

公園内各施設の利用者数は年度により変動が大きい一方で、**公園部分のみの利用者数の年変動はほとんどない**。

(利用の概況)

散策や昼の弁当を食べる場所等の**憩いの場としての利用が全体の7割**を占める。

この中には、純粋な公園利用者のみならず、**公園内に立地する武道館、科学技術館などの利用者による利用が含まれる**。



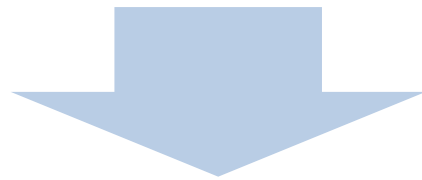
科学技術館や日本武道館が無くなると、北の丸公園利用者は激減すると考えられる

出典：環境省HP 千鳥ヶ淵周辺の利用の状況と課題 より抜粋

北の丸公園の成り立ち

科学技術館建設当時、北の丸公園は
今のような緑豊かな場所ではなかった

昭和34年 財団の設立準備委員会にお
いて科学技術館の設置が計画され、現
在の敷地に建設する事となった



北の丸公園は、
人の手で作られた「森林公園」
であり、人の手で保守が必要

何のために保守が必要か？

**日本の象徴的な森林公園として、
今後も残していく必要があるため**

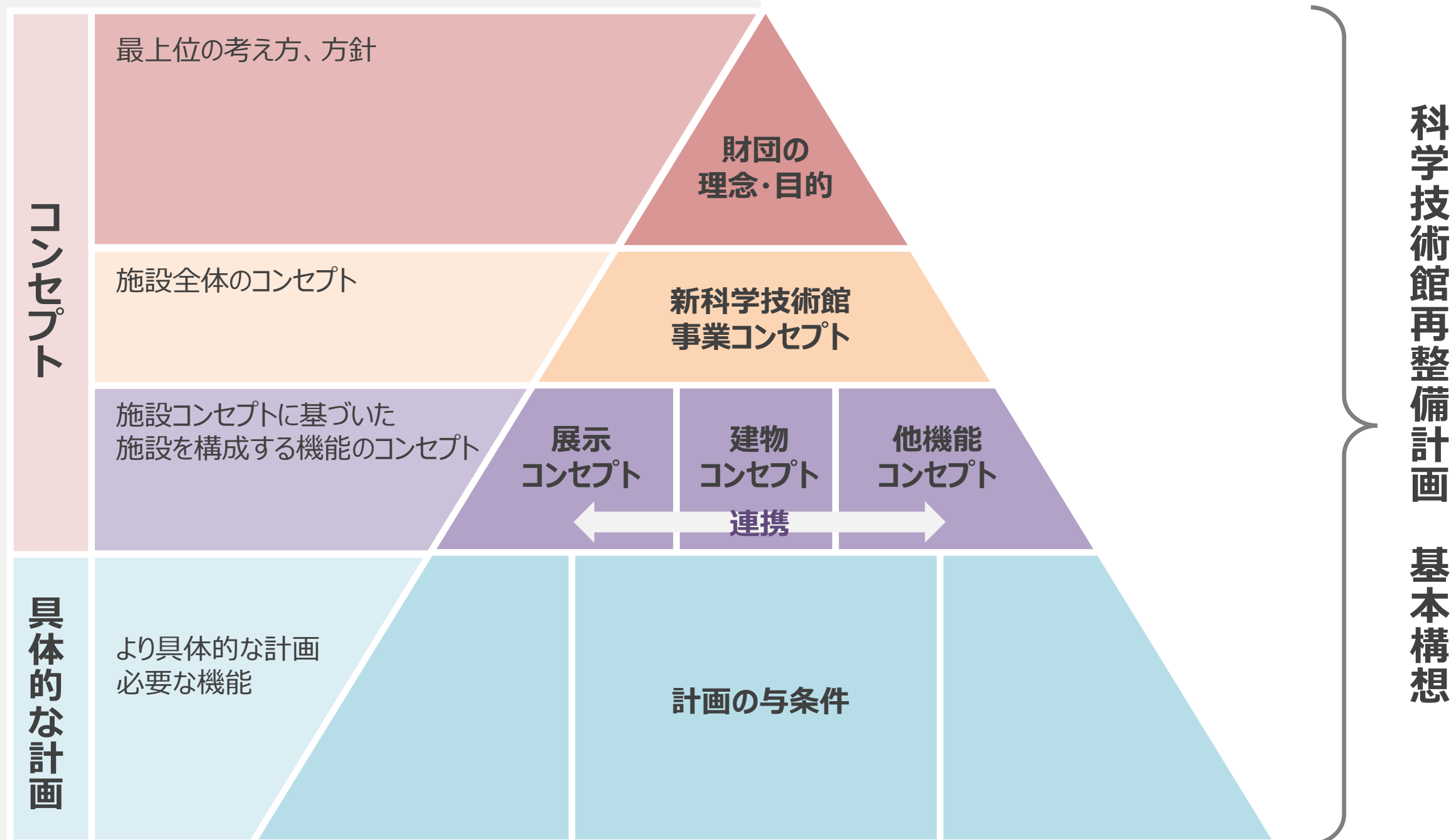


科学技術館建設当時 1964年(昭和39年)

科学技術館再整備について

科学技術館再整備計画 基本構想のコンセプトは、エリア再整備と共創します

北の丸エリアの考え方



公益財団法人 日本科学技術振興財団 目的・理念

**科学技術振興に関する諸事業を
総合的かつ効果的に推進することにより、
わが国の科学技術の発展に寄与することを目的としています**

新科学技術館 事業コンセプト

「新しい社会を創り、伝える」

日本の科学技術振興を目的とし、持続可能な社会を作る科学技術をテーマに、
「日本の中心・東京の中心である北の丸公園」から国内外に、
スマート社会（Society5.0）の先にある「持続的幸福（well being/sustainable happiness）」
のための科学・産業技術の発信拠点とする

知る・生み出す

来館者の学びの場



- ・子どもたちに新しい学びを提供（STEAM教育）
- ・社会人の学びを支援（企業研修・リスキリング）
- ・企業との協業により、コラボレーションを創出
- ・インバウンドに日本の技術を発信

広がる

周辺との連携



- ・北の丸公園に文化的・科学的な賑わいを創出
- ・自然を活かしたアクティビティー
- ・周辺施設との連携
- ・周囲を囲む街との連携

「科学」「技術」「工学」「芸術」を融合し、こどもたちの教育促進及び次世代の人材の育成を目的として、
多世代が楽しめる、科学技術に特化した

気づきと学びのサイエンスエンターテインメント施設

体験する

滞在型施設



- ・単一的な機能から、オフィス、滞在、飲食、物販など多様な機能を複合化
- ・1日中滞在でき、昼～夜の多様なコンテンツを提供
- ・生活に根差した科学技術の体験

楽しむ

最新技術を使った展示



- ・実物とバーチャルを組み合わせた科学体験や展示施設
- ・映像や音響を使った新しい手法
- ・ロボット、AI、ビッグデータを活用

子どもから大人 インバウンドまで 新しい気づきと学びの場

「科学技術」ってとっつきづらい

北の丸公園に、「楽しい」「行ってみたい」場所をつくり、
たくさんの人に利用してもらうことがスタートになる

そこで

多世代の学びを「サイエンスエンターテインメント」として提供し、
「科学技術の振興」につなげる

普段の生活に溶け込んでいる「産業技術」や「科学技術」が、
「こんなところに」と気づきを得られる学びの場

楽しさから入り

幅広い入口

科学的なものの見方、思考を身に付け

こども
の学び

課題解決ができる人材として成長し

おとな
の学び

新たな分野を開拓する

社会人
の学び

科学技術人材の拡大

科学技術の振興



新しい分野との出会い
遊びから学ぶ



実験教室・工作教室



企業研修



リスクリング

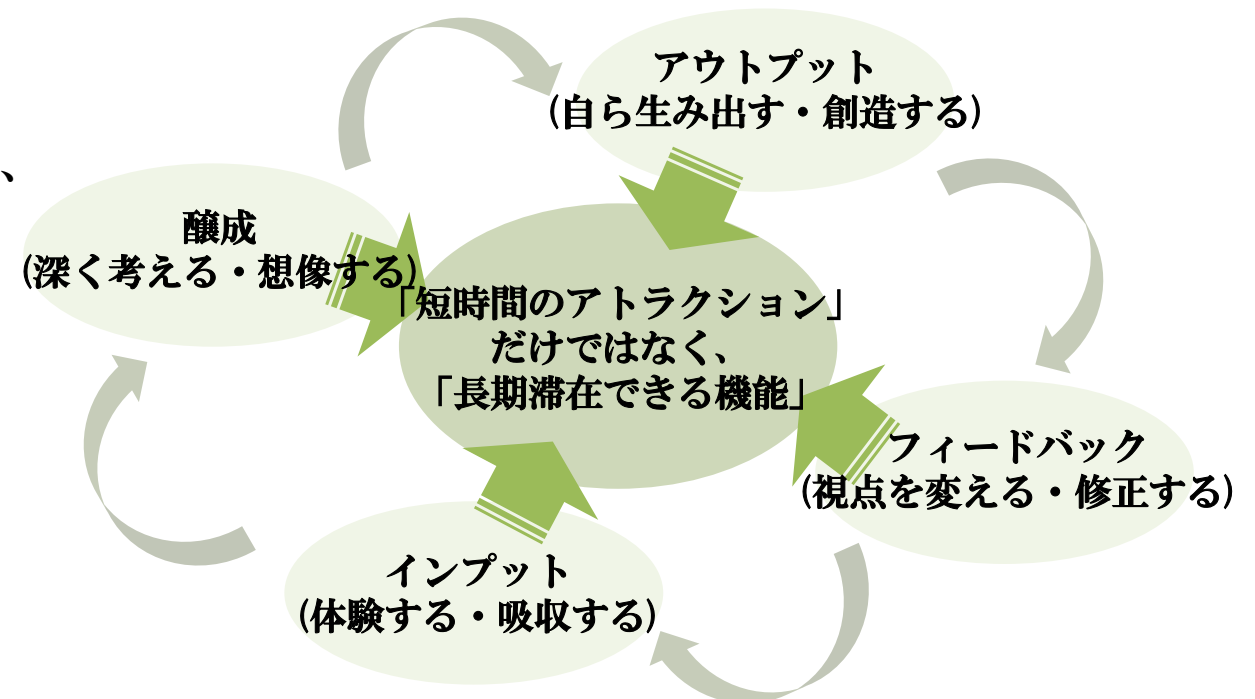
滞在型施設

新しい科学技術館の体験プロセス

これまでの科学技術館をそのまま建て替えるのではなく、新しい体験を得られる「滞在型」の施設に

博物館単体ではなく、機能を複合させることで、利用者に多様な体験（気づきや学び）をより多く提供できる

子どもたちにとって、心や記憶に残る体験を



例えば、、、

家族

公園ピクニック

展示
教育プログラム

滞在できる博物館

自然教育

ワークショップ

家族が北の丸公園利用を入口にして、展示を含めた教育プログラムを体験し、「フィジカル」と「バーチャル」を融合させた生活体験を得る

社会人

研修・セミナー受講

夜の展示

滞在

ランニング

研修

企業研修としてセミナーやワークショップを受講後、大人を中心とした夜の展示を体験 公園利用を含めた複合的なプログラム

一般利用者

ショップ

展示

レストラン

公園散歩

カフェ
モーニング

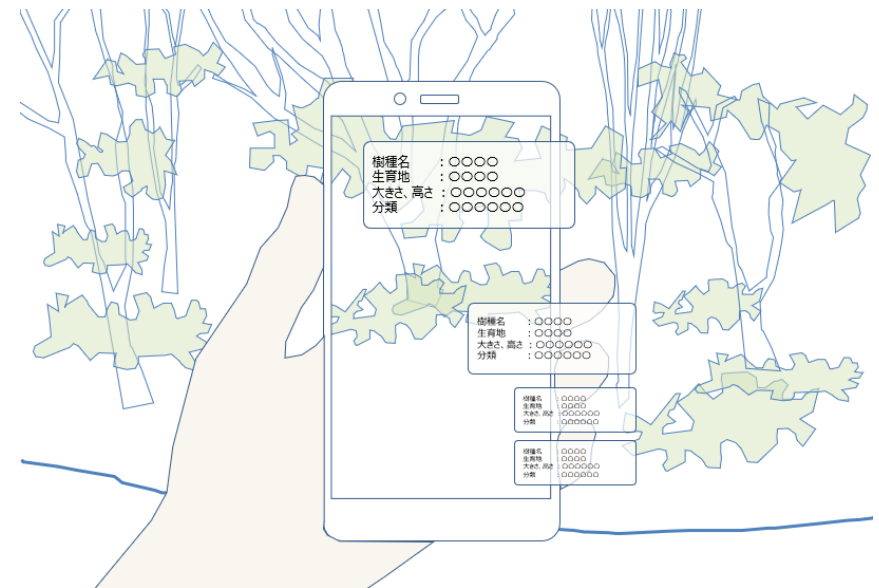
北の丸公園やショップの利用から、展示につながるプロセス レストランやカフェの複合により、これまでの利用者層以外の利用者に波及

北の丸公園やその周辺を含めた連携のかたち

施設単体で完結するのではなく、北の丸公園や周辺施設との機能連携を行うことにより、人の流れが変わりエリア全体での相乗効果を生む
北の丸公園の「品格」を守りながら、新しい魅力を創出する



北の丸公園と科学技術館の新しい連携



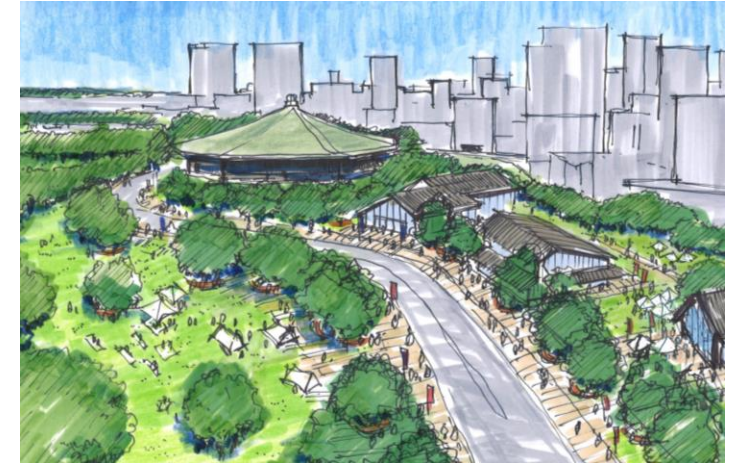
公園と連携したバーチャル展示



分割・複層化した構成等により、建物の
圧迫感を軽減



公園利用者が気軽に入ることのできる
外部空間とエントランス



周辺施設や周辺エリアとの連携・人の流れ

最新技術を使った展示

展示コンセプト

Cross Platform

様々な世代に向けた掛け合わせの場 異なる領域を掛け合わせることで、新たな価値が生まれる時代 領域横断型の体験を通じて、新しいプロセスを体験・発見するMuseum Parkへ

科学技術館 展示基本構成

01

「フィジカル」と「バーチャル」
を融合させた生活体験展示

(近い将来の日常生活のモデル展示)

衣 食 住
×
Science

02

最先端のデジタル映像技術を活用し
「デジタルアート」と「科学教育」と
「エンターテインメント」が融合した
デジタル体験型展示 (STEAM教育)

企業と企業/企業とアーティストをつなげる
ビジネス創造の場

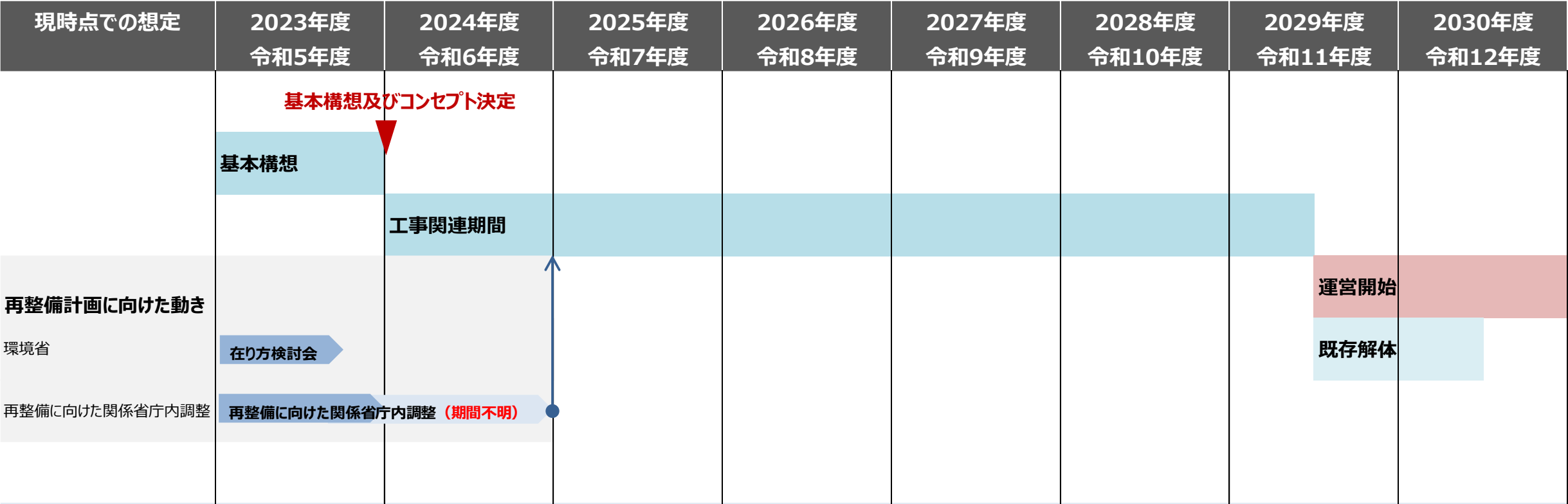
非日常体験
×
Science

03

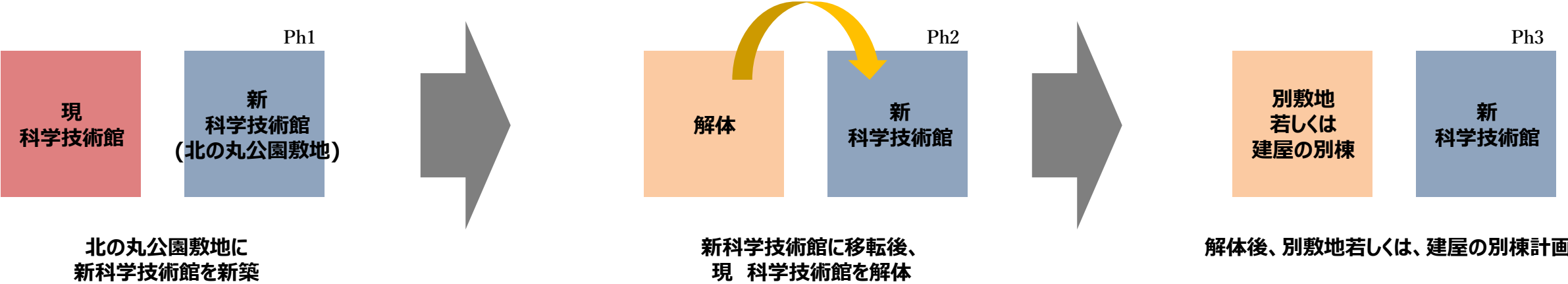
「人が集まる自然と社会の共存」を
テーマに、北の丸公園と
IoTを活用した新しいモデルの実現

Open Space
Open World
×
Science

再整備に向けたロードマップ（案）



検討中の想定建替えフロー



閣議了解により、北の丸公園に計画できる施設には制限がある

北の丸地区は皇居外苑の一部とし、森林公園として整備することが定められている
科学技術館及び日本武道館のほか、国立公文書館、近代美術館、旧近衛師団司令部以外の建物の
設置は認められない

建築基準法上の用途の制限がある

本敷地は、建築基準法上の用途地域では第1種住居地域のため、事業用途の計画に制限がある
制限を解除するためには、建築基準法48条のただし書の許可、若しくは、都市計画で用途地域を
変更する必要がある

土地の借用形態の検討が必要である

財団の自己資金だけでは、建替えの資金捻出は難しい
財団、若しくは協業事業者が銀行から融資を受ける場合、融資返済完了まで、今の敷地で事業を
行うことができるという「担保」が必要
長期の「使用許可」や「貸付」について、環境省と検討をしていきたい

北の丸公園との連携

現状、周辺施設との大きな連携は特にないが、再整備に伴い北の丸公園や近隣文化施設との連携を強化していく。

国内外への科学技術や文化芸術の情報発信拠点として、科学技術館単体の機能ではなく、近隣施設と連携した複合施設とする事で、北の丸公園に多くの国民やインバウンドが集い、人数だけでなく、質の高い賑わいの創出を目指したい。

新科学技術館の再整備にあたっては、北の丸公園の品格の維持・拡大と賑わいの創出を国と民間との創意工夫により実現したい。